

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 是石 匡宏
(コード番号 2342 東証マザーズ)
(連絡先) IR・広報担当 森田 貴子
電話番号 078-306-0590

CELLECTIS S.A.より相同組換え法による遺伝子改変技術ライセンスを取得

株式会社トランスジェニックは、CELLECTIS S.A.(フランス、CEO:Dr. André Choulika, Ph.D.、以下セレクトイス社とする)より、2007年10月15日、相同組換え法による遺伝子改変技術に関する特許群(特許第3059481号,特許第3298842号,特許第3298864号)の非独占ライセンスを取得しましたので、お知らせいたします。

このたび、当社がセレクトイス社からライセンスを取得した技術は、パスツール研究所(フランス)にて発明されたものであり、その特徴は、以下の通りです。

- ・ ライフサイエンス産業や基礎研究の分野において、疾患モデル動物等を用いた遺伝子の機能解析に有用な技術
- ・ ジーンターゲティング法に関する世界標準として認知された汎用性の高い技術
- ・ ゲノム上の特定の位置に、別の遺伝子断片を挿入・置換するために必要な基礎技術

セレクトイス社は、パスツール研究所より2000年に上記技術に関する特許群の独占的実施権の許諾を受け、これらの特許が成立している全ての国において、ライセンス活動を行っています。当社は、遺伝子破壊マウス作製受託サービスを行う国内企業としては、初めて本技術のライセンスを取得しました。

当社は、ジーンターゲティング法による遺伝子破壊マウス作製受託サービスを製薬企業および研究機関に提供しています。当該サービスに必要な技術ならびにその成果物は、上記の特許群によってカバーされています。このたびのライセンス取得によって、当社は、日本国内の競合他社に比べ、当該サービスの展開において優位性を確保することができました。また、当社の顧客(企業・大学など)は、セレクトイス社より別途ライセンスを受ける必要なく、当社から提供された遺伝子破壊マウスを遺伝子機能解析や創薬ターゲット探索などの研究に使用することが可能であります。

今後、当社は、この優位性を活用し、遺伝子破壊マウス事業において重要な位置付けにある当該サービスをさらに発展させるよう取り組んでまいります。

なお、当社は、当該サービスとは別に、可変型遺伝子トラップ法による大規模・網羅的な遺伝子破壊マウス・ES細胞ライブラリーを構築し、そこから得られた遺伝子機能情報を製薬企業および基礎研究の場に提供しておりますが、これらは当社独自の技術によるものであり、熊本大学から譲渡を受けた国際特許出願(WO01/005987)によりカバーされています。

現時点においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は未定であります。今後、重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

ご参考: セレクトイス社の概要

設立	:2000年(パスツール研究所からのスピンオフにより設立)
本社所在地	:フランス Biocitech
CEO	: Dr. André Choulika, Ph.D.
事業活動	:セレクトイス社は、研究機関や医療産業に対して、新規な遺伝子改変技術ならびにそれらに基づく製品を提供する遺伝子工学分野のリーディングカンパニーです。セレクトイス社は、パスツール研究所によって発明された「メガスクレーパー」と「相同組換え法」という2つの基盤技術の独占的な特許実施権を保有し、これらを基に独自の新規技術を開発しています。一方、製薬企業、バイオテック企業、アグロバイオ企業などに対して、これらの特許実施権のライセンス活動を行い、既に45件以上の契約を締結しております。
URL	: http://www.cellectis.com/index.php

以上

用語説明:

遺伝子破壊マウス

ある遺伝子の働きが抑えられたマウス（ノックアウトマウス）。

作製方法には、可変型遺伝子トラップ法、ジーンターゲティング法などがあります。

一方、ある遺伝子の働きを亢進させたマウスを遺伝子過剰発現マウス（トランスジェニックマウス）と言います。遺伝子を人為的に操作した、これらのマウスは総称して遺伝子改変マウスなどと呼ばれ、個体レベルにおける遺伝子機能を解明する上で、非常に重要な研究ツールです。

可変型遺伝子トラップ法

熊本大学 発生医学研究センター教授 山村研一（現在、当社取締役）らにより発明された遺伝子破壊マウスの効率的な作製方法。

この方法は、遺伝子をランダムに破壊する方法です。後述のジーンターゲティング法に比べて、その作製効率や作製コストの観点で優れています。

当社は 2000 年 4 月にこの方法に関する国際特許出願「トラップベクターおよびこれを用いた遺伝子トラップ法」(WO01/005987) の譲渡を受けており、当社の遺伝子破壊マウス事業の基盤技術と位置づけております。

この方法を用いて大規模・網羅的に作製された遺伝子破壊マウス約 700 系統、遺伝子破壊 ES 細胞約 2000 クローンが、現在、「TG Resource Bank™」として当社ホームページ上に公開されております。

ジーンターゲティング法

相同組換え法を用いて、標的とする遺伝子を改変（破壊）する方法。

この方法では、ある特定の遺伝子を狙って改変（破壊）することが可能であります。

当社は、この方法を用い、顧客の要望に応じて遺伝子破壊マウスを作製するサービスを提供しています。

相同組換え法

生物が、その生命活動を維持するために保有している DNA 損傷修復機能を利用した技術で、ゲノム上の遺伝子と似た配列を持つ（このことを相同性があると言います）遺伝子を元来の配列と置き換える技術です。この方法を利用して、ゲノム上の特定の位置に別の遺伝子断片を挿入、置換し、上述のジーンターゲティング法が可能となります。今回、当社がライセンスを取得した特許群は、このような一連の手法ならびにそれにより得られた成果物をカバーしています。